

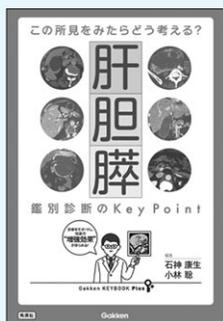
Gakken KEYBOOK Plus

この所見をみたらどう考える？ 肝胆膵 鑑別診断の Key Point

編集：

石神康生（九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野）

小林 聡（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科放射線科学）



発行：Gakken

2025年2月刊行

B5判・272ページ

定価：7,150円（10%税込）

本書は、九州大学の石神康生先生と金沢大学の小林聡先生という、肝胆膵領域の画像診断における日本を代表する放射線科医が編集を務めた注目の1冊である。肝胆膵領域における画像所見の鑑別を、従来の“病名から所見をたどる”形式ではなく、“key所見から病名に至る”構成とした点が最大の特徴である。

若手の時、画像カンファレンスのクイズ症例の担当に当たると、名著『Reeder and Felson's Gamuts in Radiology: Comprehensive Lists of Roentgen Differential Diagnosis』でkey所見からどのような疾患を疑えるのかを調べた後、

その疾患の所見を別の成書で調べて、当てはまりそうな疾患を鑑別に上げていた。本書も、放射線科医が日常診療で遭遇する「この所見から何が考えられるか？」という疑問に直接応える構成となっている。読者は、まずkeyとなる画像所見に触れ、その後、それに関連する鑑別疾患を順に理解していくというプロセスをたどることができる。さらに、各疾患についての詳細な解説が併載されており、所見の理解に留まらず、病態や診断の要点まで深く学ぶことができる点も、本書の大きな魅力である。

私自身も10年ほど前に、同様のアプローチによる教科書の編集に携わった経験があるが、本書はその進化版といえる。石神・小林両教授が選りすぐったkey pointは、いずれも臨床現場での診断精度を高める上できわめて有用であり、その選定眼には深い臨床経験と教育的配慮がにじんでいる。

本書は、若手放射線科医や肝胆膵診療に関わる他科医師にとって、鑑別診断の思考力を養う優れた教材であると同時に、専門として長年この領域に携わってきた放射線科医にとっても、自身の知識を整理・再確認する上で、恰好の1冊となるだろう。肝胆膵画像診断の本質に迫る知的興奮と実践的価値を兼ね備えた、まさに必携の書である。

神戸大学大学院医学研究科内科系講座

放射線医学分野

村上 卓道